

和東町子ども子育て会議（第1回） 議事録

日時：令和6年3月22日（金） 午後3時00分

場所：和東町商工会館 研修室

委員：出席8名、委任状提出2名

1. 開会

2. 子ども・子育て会議の設置について

事務局より説明

3. 委員紹介

事務局より委員名簿により紹介

4. 会長・副会長の選任について

会長に柳澤委員、副会長に竹谷（徹）委員が選出される。

会長より挨拶。

5. 子ども・子育て支援事業計画の概要及びスケジュールについて

資料3について事務局より説明。委員からの意見は以下のとおり。

柳澤会長：第2期の計画期間中には、こういったアンケート調査は実施したのか。

事務局：計画を策定するにあたってのアンケート調査は実施させていただいたが、計画期間中には実施していない。今回と同様、第2期計画を策定するためのアンケートのみ、実施した形となっている。

柳澤会長：第3期についても、今回のこのアンケートをもとに計画策定を進めていく形であると思う。

事務局：おっしゃる通り。

柳澤会長：今回の会議に、調査対象者である子どもの保護者である委員方にご出席いただけてないが、こういったアンケートによる意見聴取は重要になってくると思う。結果についてはまた改めて報告いただくことになると思うので、よろしく願います。

西村委員：保護者の委員方に会議出席いただくためには、会議の開催時間を調整する必要があるかと思う。日中働かれている方ばかりなので、夜の時間帯に開催する等の工夫が出来たら良いかと思う。竹谷委員も、いつも色々と取り組んでいただいている方で、様々なことを多角的に考える才能ある頼もしい方である。会議に出席いただけたら良い意見がいただけたらと思う。会議の開催時間を検討してもらえたらと思う。

柳澤会長：次回の会議からは検討をお願いできればと思うが、PTAの方々は今年度で任期が切れてしまうので、出席者が変わる可能性もある。

最近では Zoom 等オンラインの参加も増えてきているが、和東町では対面の形が採用さ

れている。また、主婦の方だと夜も出かけにくい面もあると思うので、本人に時間の希望を聞くのも良いと思う。貴重な意見をいただくため、調整を進めていってほしい。

西田委員：今回、こういった会議には初めて参加させていただくので、少し不安もある。

資料の中のスケジュールの部分に「シート作成」という項目があるが、アンケートの調査票は出来上がっていると思う。このシートとは何を指すのか教えてほしい。

事務局：資料についてわかりづらく申し訳ない。こちらの「シート作成」は、庁内に各施策の進捗状況を調査するためのシートを指すものとなっている。現行の計画に関して、施策が進んでいる・進んでいないという状況を把握するため、関係各課へシート調査を実施する予定となっている。

6. アンケート調査の内容について

資料4・5に関する委員からの意見は以下のとおり。

富岡委員：和束町の保護者の皆さまは、子育てに熱心な方が多く、こういったアンケートに関しても、しっかりと期限内にご回答いただいております。保育園で実施したアンケートに関しても、皆さま提出くださる。結果の内容はまだわからないが、しっかりとご回答いただいていると思うので、結果について重視してよいものになっていると思う。

西村委員：アンケートに関して、興味深く思っていることが、この最後の設問である「居留意向」の部分。令和5年度の小学校児童数は106人で、そのうちの1割程度が和束町に住民票を置きながら木津川市に住んでいる。この状況については、なぜだろうと日々思っている。和束小学校に通う理由が「和束小が好きだから」だったらとても嬉しいことであるが、和束町の小学校に通うメリットや事情みたいなものがあるのであれば知りたい。来年度は、児童数が89人となり100人を割る。今後も80~90人台の児童数になっていくと思う。今後どうなっていくのかといった面においても、この回答内容について興味を持っている。

柳澤会長：高齢化・過疎化は避けられない問題であるし、明確な答えが出る問題でもないのであるが、子どもに対する支援や教育に関して、充実した環境を提供していく部分については、和束町としてもっと前面に出して取り組んでいくことが大事であると思う。

和束町から出ていく理由としては、「不便さ」が理由になることもあると思うが、アンケートでそういった回答が出た際に、町としてどうしてくれるのか、どう対応していつてくれるのか、という部分は、考えていかないといけないところになると思う。商店が少ないからといって商店を呼んでくれるかということ、それも難しいと思うし、医療面についても小児医療をもっと充実させて、という意見に対する対応も難しい面もある。対応が求められるという面では、アンケート結果は怖い部分もあるが、参考にして進めていってほしい。

外部に居住しながら和束町に通うという例が、保育園だけでなく小学校でもそういった状況があるということで、アンケートにその理由を明確に書いてくださるかとは分らないけれど、数件でも書いてくだされば、このアンケートの意義もあると思う。

事務局：国の方針も踏まえつつ、「こども誰でも通園制度」に関する設問を追加した。国が検討を進めているこの制度について、もし和束町で実施した際にどれくらいの需要があるのか

を把握できればと考えている。また、「認定こども園」に関する意向についても、伺う設問を設けている。こういった設問の結果についても、町としては気になっている。アンケートの結果を踏まえて、今後どう進めていくか考えていければと思うし、参考にしていければと思う。

西村委員：アンケートに回答いただく保護者の方々が、保育園・幼稚園・認定こども園といったそれぞれの違いや特色みたいなのがわかるだろうか、と考えると難しいだろうなと思う。調査票に用語の定義として記載はいただいているが、保育と教育の内容の違いやそれぞれのメリット・デメリットのような部分までわかって回答いただいているか、というと、難しいのかなと思う。

事務局：「こども誰でも通園制度」は、令和8年度事業実施を目指して、国が検討を進めているところ。月10時間等の制約のある制度であるが、他自治体でもモデル事業が始まっている。委員のご意見もいただいたが、アンケートにおいて、幼稚園や保育園、誰がどれに入れる、どんな制度があるといった部分を保護者が理解しきったうえで回答できているかという面では難しいところがあると思う。

また、認定こども園については、町としても検討に入っている段階で、実際に実施するかどうかは別として、意見をいただきながら考えていければと思っており、今回のアンケート結果も含めて考えていきたい。近隣にも認定こども園は増えてきており、できるだけ全ての子どもが集団生活を送る中で様々なことを学んでいけるように取り組みを進めていければと思う。町としても、この会議以外でも説明を実施して、住民の皆さまの理解促進に向けて進んでいかななくてはと考えている。周知・広報を行っていききたいと思う。

柳澤会長：保育等の制度に関しては、具体の名称（和束保育園等）を入れた方がわかりやすいかとも思う。実際に回答いただいた竹谷委員からも、何か意見等あれば願います。

竹谷（史）委員：アンケートに答える中で、迷ったというか引かかったのは、今も意見のあった認定こども園のところ。今の保育園でも十分に教育面は進めてくださっているし、英語のレッスンもしていただいたり、良いカリキュラムを取り入れていただいていると保護者としては感じている。そこでもし、認定こども園になったとした時に、預けられる時間が変わるのかとか、カリキュラムが増えるのかとかかわからないまま回答する形なので、どこに丸をつけようかなと迷ったところだった。また、周りの保護者の声として、英語教育をもっとしてほしい等の声もあるので、アンケートでもそういった意見があればそれも含めて活かして行ってほしいと思う。

小学校の調査票においては、和束町では学童といきいきこども館が2つあるので、そのわかりにくさがあったかもしれないと感じた。

柳澤会長：教育や保育の制度の違いは、行政的な管轄のところもあるので、カリキュラムの内容による違いではないが、カリキュラム等への意向がアンケートの中に現れているなら、そういった意見は反映して行ってほしいと思う。

毎年5人くらいの出生数となっている和束町として、今後どう進んでいくのか。子どもたちへの教育の大切さを考えたり、幼少期を有意義な時間として過ごしてもらうためにも、保育・教育の面はしっかりと考えていければと思う。

事務局：委員の方から、会議開催の時間帯について、PTAの皆さんのご意見も伺いながら調整

していく方が良いのではないかというご意見をいただいた。竹谷委員として、希望する時間帯等があれば教えていただきたい。

竹谷（史）委員：本日開催いただいている時間で問題ないが、希望を申し上げるのであれば、保育園のお迎えに間に合う時間帯であればありがたい。

事務局：昼と夜であればどちらが良いか。

竹谷（史）委員：昼でお願いしたい。

柳澤会長：事前に日程を決めて連絡することで、シフトの調整も出来ると思う。そういった対応もお願いできればと思う。

事務局：ご意見参考にさせていただき、調整させていただく。

7. 閉会

閉会にあたり、副会長より挨拶。

以上